

令和6年度 江戸川区立下鎌田小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	一しなやかで、たくましい心とからだを育む下鎌田小 ○思いやりのある子 ○よく考える子 ○明るく元気な子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○自分のめあてに向かって最後までやり通す子供 ○友達との競い合いを通して、自己を尊重できる子供 ○探究心が旺盛で、何事にもチャレンジし、失敗してもへこたれない子供 ○美しいものに感動する豊かな感性をもつ子供
前年度までの本校の現状	成果 ○下鎌田小学校、下鎌田西小学校の統合により開校した1年目だったが、大規模校として学校行事等の実施方法を工夫し、運営することでねらいを十分達成できた。また、年度内であっても保護者アンケートなどを生かして実施方法を改善することで、より良い学校運営に努めた。	課題	○統合1年目ということもあり、遠足や持久走など実施ができなかった行事があった。 ○全国学力調査では全国平均をやや下回り、児童の積極性にも課題が見られた。 ○児童数に対して校庭や体育館が狭いため、毎日運動できる場所を確保するのが難しかった。 ○朝や登校時等、自発的に挨拶をできる児童が少なかった。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室の実施・有効活用 電子ドリルや東京ベーシック・ドリルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習の140回以上の実施。 診断テストの正答率低学年90%、中学年70%、高学年70%を達成。 	80%		B	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習は1学期に39回実施。 診断テスト低学年は未実施、3年生75%、4年生68%、5年生68%、6年生61% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な内容についても補習などを通して身に付けていってほしい。 					
	家庭学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業の実施 ミライシードをはじめとした学習アプリやiPadの日常的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川っ子study week!を実施し、ドリルパークの家庭学習を80%以上の児童が修了。 	86%		B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の朝学習、授業、宿題等で実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 通信環境の関係で学校で一言に取り組むことは難しいが、今後も継続していく必要があると思う。 					
	授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> 高学年での教科担任制の実施。 研究授業6回実施。 OJT研修年10回以上実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査の質問紙調査で算数・国語が「よくわかる」60%以上。 授業改善が進んだと実感する教員80%以上 	70%		B	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査の質問紙調査で、「よくわかる」国語46%、算数56%。 研究授業を通して算教科授業改善の意識が向上している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の熱心な指導に感謝するが、授業研究を通しての指導力向上にますます努めてほしい。 					
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書69回以上。 学校応援団と連携した読み聞かせ毎学期実施。 各学年12時間以上の読書科授業の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書を「好き」と答える児童70%以上。 1日の読書30分以上する児童40%以上。 	80%		B	<ul style="list-style-type: none"> 読書を「好き」と答える児童7月で79%。 1日の読書30分以上の児童は7月で33%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせをすることで読書が好きなお子が増える。本が好きなお子を増やし、読書する時間をさらに確保するとよい。 					
体力の向上	運動意欲や基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や休み時間における運動遊びなど、主体的な運動の実施による運動意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の実技研修学期1回以上実施。 週に420分以上運動する児童60%以上 	80%		B	<ul style="list-style-type: none"> 体育科で実技研修を1学期は1回実施。 週に420分以上（1日1時間以上）運動する児童61%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 運動と合わせて生活リズムも大切。保護者の協力を得て、規則正しい生活ができるようにしてほしい。 					
		<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回のなわ跳び週間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 70%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加 	80%		B	<ul style="list-style-type: none"> 原則として全員が参加。今後、なわとび週間が終わっても自主的に取り組むような更なる動きかけが必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3学期には持久走大会も計画中。更なる体力向上を期待する。 					
表現に 向けた 共生社会の 推進	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 巡回指導教員、SC、特別支援Cの連携を深め、個に応じた対応を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回指導教員による2年生全学級への理解教育の実施。 	100%		A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期中に2年生全学級への理解教育を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続していく。 					
	副籍交流の実施	<ul style="list-style-type: none"> 近隣特別支援学校に通う児童との副籍交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して副籍の児童との交流を実施。 	70%		B	<ul style="list-style-type: none"> 副籍児童の保護者、本籍校との打ち合わせを実施。1学期は間接交流のみだったが、2学期より直接交流も開始。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 副籍交流はよい取組なので積極的にやってほしい。 					
	人間関係の基礎となるコミュニケーションスキルの向上	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体であいさつを励行し、元気でさわやかな挨拶ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「すすんであいさつをする」について保護者による好評価50%以上。 	70%		B	<ul style="list-style-type: none"> 「すすんであいさつをする」について児童自身の肯定的評価は87%。今後、相手意識をもって挨拶できるよう、さらなる動きかけが必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 取組は評価する。子供たちだけでなく、保護者にも働きかけ、元気でさわやかなあいさつができるように粘り強く取り組んでほしい。 					
不登校・いじめ対応の充実	不登校、いじめ等への対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導夕会による児童の情報共有を毎週実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関等どこにもつながっていない不登校児童0人。 いじめ未解決事案0件。 	80%		B	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめは『認知して解消する』」という考えのもと、児童同士の関係づくりに努めている。重大事案につながるような事案はない。今後も継続的に見守っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校に足が向かない児童については、SSWや地域の協力も得ながら働きかけていく。 					
	エンカレッジルームの活用	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームを活用した登校支援。 	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームの担当教員を毎時間配置。 	100%		A	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルーム担当教員を全時間配置。 	B	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームを利用する子が増えると、先生方の負担が増す。エンカレッジルームを担当する教員の配置を望む。 					
	hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QUの結果をもとに、学級指導の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QUの結果について年に1回は研修を行い、結果を基に学級経営の充実を図る。 	100%		A	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QUについて、外部講師を招いて1学期中に研修を実施。結果を個人面談で保護者に返し、2学期以降の学級経営の充実を図っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 統合2年目になるが、子供同士が一体となっているを感じる。統合して子供の人数が増えたことで、活気が生まれているように感じる。 					
学校（園）の 開かれた 地域の 実現	○学校（園）ホームページの充実等	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、月に2回以上はHPを更新。 tetoruで学校情報をタイムリーに発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、教育活動等の情報を分かりやすく、タイムリーに保護者に伝えている」好評価90%以上。 	58%		C	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新回数月2回以上の達成率58%。教育活動について保護者への発信を強化する。 tetoruで必要な情報をタイムリーに発信できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新は月2回以上を目指していくのはよいが、教員の負担にならない程度でよい。 今後もtetoruを活用しての情報発信を行うとよい。 					
	○学校公開の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開を活用して、学校の全曜日の授業を保護者が参観できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開を年4回実施。 「学校は保護者の要望を受け止めて対応している」好評価80%以上。 	80%		B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期中に学校公開を2回実施。時間の制限をなくし、保護者が見たい時間に参観できるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も取り組みを継続し、学校の様子を見せることで、保護者の学校への理解が深まることを期待する。 					
	○学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域が学校の教育活動を評価する機会を設定。 年3回学校評議員会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> Formsを活用し、毎学校公開後に広く保護者や学校関係者の意見を集め、学校経営の改善に生かす。 	90%		A	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開についてFormsでアンケートを実施。改善点は即座に運営に生かしており、肯定的な評価が多数。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 改善できることはどんどん改善してほしい。昨年度よりいろいろな面で改善していることを実感している。 					
教育の 特色ある 展開	「本物の体験」を通して豊かな心を育成	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーによる授業・体験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、ゲストティーチャーによる授業を実施し、よさを実感することのできた児童90%以上（アンケートによる）。 	92%		A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期は田植え、水通キヤラパン、租税教室、自転車安全教室などを実施。 ゲストティーチャーによる授業への肯定的評価92%。2学期以降も児童に体験の学びの機会を設定していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も多様な体験を子供たちにさせて、豊かな心を育ててほしい。 					
	児童の願いを実現する活動	<ul style="list-style-type: none"> 金管バンド、ネオホッケークラブの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に金管バンド、2学期にネオホッケークラブを設置し、児童の満足度90%以上。 	91%		A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に金管バンドを設置し、音楽会、管楽器発表会に向けて週3回の朝練習を実施。 児童の満足度91%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 音楽会での金管バンドの演奏は迫力があり素晴らしい。今後も継続し、子供たちの主体性を高めていってほしい。 					